

## 古墳壁画の保存活用に関する検討会（第28回）議事要旨

1. 日時 令和3年3月23日（水）13:30～15:30

2. 場所 TKP新橋カンファレンスセンターホール16D

3. 出席者（委員）

和田座長，泉委員，岡林委員，佐藤委員，高鳥委員，三浦委員，宮下委員，  
森川委員，矢島委員，柳澤委員，

（オンライン）小林委員，里中委員，林部委員，銚井委員，中村委員  
（事務局）

文化庁：杉浦次長，伊藤文化資源活用課長・古墳壁画室長，田村文化財第一課長・  
古墳壁画室副室長，山田文化資源活用課文化遺産国際協力室長，平桑文化  
資源活用課課長補佐，宇田川古墳壁面对策調査官，青木文化財調査官，横  
須賀文化財調査官，森井文化財調査官，川畑文部科学技官，伊藤文部科学  
技官 ほか

独立行政法人国立文化財機構

東京文化財研究所：山梨副所長，早川保存科学研究センター長，秋山保存科学研  
究センター保存科学研究室長，犬塚保存科学研究センター分析化学研究室  
長，佐藤保存科学研究センター生物科学研究室長，早川保存科学研究セン  
ター修復材料研究室長，川島研究支援推進部長 ほか

奈良文化財研究所：高妻副所長，清野都城発掘調査部副部長，廣瀬都城発掘調査  
部主任研究員，石橋飛鳥資料館学芸室長，内田文化遺産部遺跡整備研究室  
長，中島文化遺産部景観研究室長（オンライン），脇谷埋蔵文化財センタ  
ー保存修復科学研究室長，矢田研究支援推進部長，貴村研究支援推進部連  
携推進課長 ほか

京都国立博物館：降幡学芸部保存科学室長（オンライン）

4. 概要

（1）開会

（2）委員及び出席者紹介

（3）議事

① 高松塚古墳及びキトラ古墳の保存活用について

・宇田川調査官から資料2、資料3について説明があった。

宮下委員：資料3にある来場者のニーズ把握について伺いたい。第24回検討会で発言した視覚障  
害者に対する配慮などに加えて、近年では、自閉症、認知症などに悩む方たちにどのよ  
うに鑑賞してもらうか、多くの美術館や博物館で取り組んでいる。例えば、触覚だけで

はなく嗅覚や他の感覚を使う事例もある。今回のアンケートは、入館者やインターネットが対象で、マイノリティーの声がなかなか上がってこないが、新しくつくる未来のミュージアムの公平性をどのように担保していくのか、ご意見を伺いたい。

宇田川調査官：来年度の基本構想で、ご意見を十分に踏まえたうえで、多様な方が利用しやすく、壁画古墳の理解が深まる手法が検討できるよう調査対象を設定したい。

佐藤委員：高松塚をはじめとする日本の壁画古墳を中心とした文化遺産の価値を世界に伝えるうえで、オンラインでの発信を検討してほしい。また、高松塚古墳壁画は東アジアの国際交流のなかで誕生した文化遺産であることをもっとうち出してほしい。さらに、高松塚古墳壁画の価値はこれからの調査研究でさらに高まるものであり、歴史講座・シンポジウム・世界的な研究交流などをぜひ進めてほしい。これらを進めるうえでは、キトラ古墳四神の館、飛鳥資料館、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館や、明日香村内の史跡、社寺、文化財公開施設と連携し、東になって発信を心掛けてほしい。

森川委員：オンラインでの発信は、昨年5月の文化観光振興法の施行に伴って、明日香村も奈良県や文化庁とともに、文化財を分かりやすく多くの方々に説明するため、ITの専門の方々と一緒に取組を始めた。また、飛鳥・藤原の世界遺産登録を目指す立場からも、海外を含めて幅広い方々に、オンラインを含めた情報発信について意識して取り組んでいる。高松塚古墳壁画も同様に取り組んでほしい。

里中委員：オンラインによる積極的な発信に大賛成である。コロナ禍に関わらず将来的に有効な手段だ。例えば、フィレンツェのウフィツィ美術館では、観光案内としての建物全体だけではなく、学芸員による熱心な作品解説もインターネットにアップされている。高松塚古墳壁画は見せるべき画像の数が少ないが、多角的に見せることを考えなければならない。例えば、壁画であれば側面的な盛り上がりや、星宿図であれば当時の天空なども興味を引く内容ではないか。何十年も見て頂くことを考えて、できるだけ高精細で撮影してほしい。あと、資料3で示される敷地について、古墳周辺の地下遺構を含めて発掘調査は尽くされているのか。

森川委員：飛鳥旧跡やその周辺の発掘調査は進んでいるが、古墳エリアは今でも偶然見つけて調査が進むことが多い。高松塚古墳周辺は中尾山古墳、文武天皇陵以外にもまだまだ古墳があるだろうと言われている。令和3年度、4年度あたりに、地下探査などの準備を進めている。

現在明日香村では、世界遺産登録に向けた取り組み以外にも、文化観光振興法に基づく地域計画として、高松塚古墳も含めた村内10か所の遺跡・史跡を拠点とした文化観光振興を進めている。村内の新型コロナウイルス感染者も減って落ち着いてきたなか、明日香村オンラインハーフマラソンイベントを行ったところ、資料3では無関心とされる若い世代のアプローチもあった。また、ヨーロッパやインド商工会なども、アフターコロナを見越してなのか、大都市だけでなく地方の魅力発掘を行っているので、そのような視点もぜひ持っていただきたい。最後に連携だが、民間事業者も含めた役割分担を考えてほしい。

林部委員：アンケートに基づいて利用者像・ターゲットを設定するのはよいが、今後来てほしい人たちのことを考えて展示のコンセプトを考えてもよいのではないかと。

小林委員：基礎調査の検討に参加した立場として、今回は本当に膨大な調査を行ったが、検討会の意見を真摯に受け止めたい。この調査は、基本的にリアルな施設をどうするかという観点で実施したものであり、ユニバーサルやオンラインの観点が確かに少なかった。ただ、調査結果より、明日香地域の様々な遺跡をめぐって学ぶ施設として、導入拠点が欠けていること、回遊性の欠如などが一番大きな問題と感じているなかで、そのあたりを解消するべく、かなり熱く議論をして意見を盛り込めた。また、調査・研究の項目では、古墳壁画を狭い意味ではなく広い意味で、研究拠点として何らかの機能を持たせるよう、重きを置くべきであるという意見は議論でも出ており、調査報告として反映させている。

矢島委員：高松塚を含めた明日香周辺の遺跡群について、具体的には誰に向かって、一体何を私たちは発信するべきか、高松塚の意味や意義を含めて、もう一度基本構想にきちんと盛り込んでいただきたい。また、中だけの議論では深掘りにはなるが間口が非常に狭くなるので、できるだけ幅広く多くの方々の意見を収集してほしい。ただし、核となる理念については上手に整合させてほしい。

- ・ 廣瀬奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員、石橋奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長、内田文化遺産部遺跡整備研究室長から資料4-1、早川保存科学研究センター修復材料研究室長から資料4-2-1、脇谷埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長から資料4-2-2、犬塚保存科学研究センター分析化学研究室長から資料4-3、佐藤保存科学研究センター生物科学研究室長および脇谷埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長から資料4-4について説明があった。また、宇田川調査官より資料4-1のうちキトラ古墳墳丘のイノシシ被害及び応急対応について補足説明があった。

高鳥委員：資料4-2-1にある、キトラ古墳壁画の月2回の点検で確認される表面のほこりとは何か。目視で見える程度のものなのか。前から継続的に確認されているのか。空調管理の影響はないのか。

宇田川調査官：装演師が点検で気付くレベルの大変細かいものである。日常管理で壁画保管室に入出入りしており、その過程で発生している可能性もある。壁画表面への蓄積は避けたいため、壁画全体を覆う蓋の検討を始めたところである。

林部委員：資料4-1にある高松塚古墳及びキトラ古墳の保存活用について、高松塚周辺の地形モデルのコンピューターグラフィックだけではなく、時代ごとの飛鳥・藤原地域の移り変わりや、その中で高松塚古墳が造られる意味などが説明できるよう、これから調査研究を続けてほしい。

- ・ 宇田川調査官から資料5、資料6について説明があった。

柳澤委員：基本構想は一年で進めるのか。高松塚古墳の保存の経緯については、別の章立てにするなど検討してほしい。あと、来年3月が高松塚古墳壁画発見から50年の節目で、検討会か文化庁による何らかの声明などを検討されてはいいか。50年の歴史で、壁画の保存だけではなく、遺跡に対する情報発信の在り方、公開活用の方法など、ある意味文化

財行政の50年間の総括になろうかと思う。検討会の存在意義も、将来にわたって古墳壁画を見続ける宣言の下に設立されたかと思うので、多くの方に知っていただくよう検討してほしい。

佐藤委員：高松塚古墳発見50周年記念の展示やシンポジウムの開催に対し、古墳壁画室として協力して盛り上げていくとともに、来年度検討を進める基本構想にも結びつけて盛り上げていくよう、国民的な理解を得ながら事業を進めてほしい。

伊藤文化資源活用課長：委員の意見のとおり、古墳壁画全体の保存活用に関する助言、方針をいただくために検討会を設置したので、我が国の古墳壁画のこれまでの在り様や今後も含めて発信を強くしていくべきだという示唆を受け止め、引き続き古墳壁画を日本の宝として、継続的な保存活用につなげていけるよう検討させていただきたい。

和田座長：1年で基本構想をまとめることは大変だが、ヒアリングなど各委員も惜しむことなく協力してほしい。

## ② 装飾古墳の保存活用について

- ・川畑文部科学技官から熊本県における装飾古墳に関する取組について説明があった。

### (4) その他

事務局から、令和3年度の検討会は2回開催予定であること、次回の開催については令和3年度上半期の開催を考えており、後日、日程調整を行うことを連絡した。

### (5) 閉会

(以上)